



JAPANESE A2 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A2 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A2 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Thursday 13 May 2010 (afternoon)
Jeudi 13 mai 2010 (après-midi)
Jueves 13 de mayo de 2010 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Section A consists of two passages for comparative commentary.
- Section B consists of two passages for comparative commentary.
- Choose either Section A or Section B. Write one comparative commentary.
- It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- La section A comporte deux passages à commenter.
- La section B comporte deux passages à commenter.
- Choisissez soit la section A, soit la section B. Écrivez un commentaire comparatif.
- Vous n'êtes pas obligé(e) de répondre directement aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le souhaitez.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- En la Sección A hay dos fragmentos para comentar.
- En la Sección B hay dos fragmentos para comentar.
- Elija la Sección A o la Sección B. Escriba un comentario comparativo.
- No es obligatorio responder directamente a las preguntas de orientación que se incluyen, pero puede utilizarlas si lo desea.

問題 A か問題 B のどちらかを選び、答えなさい。

問題 A

次の二つの文章について、共通点・相違点・主題を分析し比較しなさい。またその際、筆者が自分の考えを伝えるために用いている文の構成・語彙・言葉の象徴するもの・文体などの要素を考慮に入れなさい。この二つのテキストの終わりには設問がありますが、設問に直接答える必要はありません。この設問を、単にコメントリーを書き始める手がかりとして用いることも可能です。

テキスト 1

ズルイよ

「今度の遠足は、山登りだ」と聞いたのは、4年生になってすぐのことだった。それも、大人が登るにも険しい山ということだ。ボクの頭に、「車いすではなおさら・・・」という言葉が続く。何でもやりたがるボクでも、さすがに今回は無理だと思った。母の口から、今回の遠足は欠席する旨を先生に伝えてもらう。しかし、先生はそれを認めなかった。

5 「連れていってしまえば、なんとかなるでしょう。まさか、その場に置いてくるわけにもいきませんし」

しかし、その先生も遠足の実踏^{じつとう}に行き、事の重大さをいやというほど知らされた。それだけ険しい山なのだ。(中略)本来、実踏^{じつとう}というのは、トイレの位置を確認したり、休憩する場所を考えたり、全員が整列するスペースがあるかを確認するために行われるものだ。それが、いつの間にか他のクラ

10 スの先生も加わって、「乙武をどのようにして連れていったらいいか」という実踏^{じつとう}に変わってしまった。4組の体の大きな男の先生が「いざとなったら、私がせおって歩きますから、心配せずに乙武を連れていってください」と言ってくれていた。とにかく、学年全体で、ボクを頂上まで連れていく覚悟だったようだ。

翌週、学級会が開かれた。議題は、「オトちゃんをどうするか」。変テコな学級会だ。

15 先生 「今度の遠足は、神奈川県にある弘法山というところに行きます。みんな、山登りになるけど、だいじょうぶかな？」

子ども 「だいじょうぶで一す」

先生 「この前、先生も他のクラスの先生と一緒にやってきたけど、本当にたいへんでした。それでも、みんなはだいじょうぶかな？」

20 子ども 「だいじょうぶで一す」

先生 「でも、乙武くんは車いすだよ。このまえ、お母さんから『今回の遠足はお休みさせます』って言われたんだけど、みんなはどう思う？」

子ども 「ズルイよ！」

予期せぬ言葉が返ってきた。高木先生も、この言葉には驚きをおさずいた。

25 子ども 「そんなに登るのがたいへんな山なのに、オトちゃんだけ休むなんてズルイよ」

他の子からも、「そうだ、そうだ」という声上がる。

ボクが行くことになって、よけいに苦勞するのは子どもたちだ。ただ登るだけでもキツイというのに、車いすを連れて頂上を目指さなければならないのだ。

しかし、その子どもたちから発せられた言葉は、「オトちゃんだけ休むなんてズルイ」。彼らにとっ

30 ては、クラスの一員であるボクが、行事を休みことが不可解^{ふかかい}だったようだ。こうして、ボクも弘法山^{いど}に挑むことになった。

おとけひろただ ごたいふまんぞく
(乙武洋匡『五体不満足』1998年)

乙武洋匡(1976年～)スポーツライターから転身して、現在小学校教師。手や足に障害^{しょうがい}を持つが、車いすにのって普通の学校に通った。大学生の時、自伝『五体不満足』を書き、ベストセラーになる。

テキスト 2

車イスから見た町

人間には、一人で好きな時に好きな所に行くという行動の自由があります。

しかし、車イスのわたしには、そんなきままな行動が許されないのです。町に一步出れば、歩道橋、駅の階段、地下鉄の出入口、バス、電車といったさまざまなものが前に立ちほだけ、行動の自由をはばむのです。(中略)

5 車イスのわたしも人間ですから、わたしにも行動の自由があつてあたりまえです。行動の自由は、人間一人一人に与えられた権利なのです。車イスだからといってこの権利を否定することは許されません。

町は、車イスにも行動の自由を保障する責任があるのです。

もし、車イスだから、歩道橋や駅の階段が使えなくても、バスや電車に乗れなくても、がまんしろ
10 というのであれば、これは車イスに対する権利の侵害しんがいになるとわたしは考えています。

わたしの約五十年の人生は、いつも小便をがまんしながらの人生でした。あなたが小便をがまんしなくてもよいのは、あなたの足が動くからではありません。町の中のいたる所に、あなたの使えるトイレがあるからです。車イスのわたしが小便をがまんしなければならないのは、わたしの足が動かないからではありません。町の中に、車イスで使えるトイレがほとんどないからです。町の中に、あなた
15 とも、車イスのわたしも、みんなが使えるトイレがあれば、わたしの人生は変わるのです。

「障害者基本法しょうがい」という法律があります。この法律の第三条には、こう書かれています。

すべて障害者は、個人の尊厳そんげんが重んぜられ、その尊厳にふさわしい処遇しょぐうを保障させる権利を有するものとする。

すべて障害者は、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるものとする。

20

このことを、忘れないでほしいと思います。
わたしは、これからも車イスの生活を続けます。

(村田稔『車イスから見た町』1994年)

村田稔(1937年～)弁護士。車イスの弁護士として知られている。

設問

- 二人の筆者は、障害者について、どのように考えていますか。
- 二つの文章は、読者に、それぞれどのような影響を与えるか比較しなさい。
- このテーマを取り上げるにあたって、筆者は言葉や文体をどのように使っていますか。

問題 B

次の二つの文章について、共通点・相違点・主題を分析し比較しなさい。またその際、筆者が自分の考えを伝えるために用いている文の構成・語彙・言葉の象徴するもの・文体などの要素を考慮に入れなさい。この二つのテキストの終わりには設問がありますが、設問に直接答える必要はありません。この設問を、単にコメントリーを書きはじめる手がかりとして用いることも可能です。

テキスト 3

馬に水を飲ませる

講義を聴く側から、講義を行う側になってもう何年もが経過した。教員になって初めて実感したことは、新学年の始まりや夏休みの終わりが、学生以上に憂鬱ゆううつだということだ。学生にとっては新しい講義のスタートであっても、教える側から見ると、基本的に昨年とほとんど同じことをくり返さなければならぬからである。私がまだ学生だった頃、先生たちは微塵みじんも憂鬱ゆううつなそぶりは見せなかった。

5 どの先生も、ほんとうは去年と同じ話をすることに食傷しょくしょうしていたはずなのに。いつも熱心に、雄弁に、そして新鮮に語ってくれた。見習わねばならない芸である。

最近の学生はまじめだ。きちんと出席し、熱心にノートを取る。けれども私の話したことのいったいどれほどのことが、若い学生たちの心に届いているのか、そのことを知る手がかりはほとんどない。

最近の学生は講義中、概して無反応がだから。

10 憂鬱ゆううつさの本質も実はここにある。憂鬱ゆううつなのは、同じ話をくり返すことにあきたからではない。同じことをくり返せばくり返すほど「教育の不可能性」とでも呼ぶべきことを痛感つうかんするからである。

馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない。そういうことわざがある。ほんとうにそのとおりである。教育にたずさわる私たちは、何ごとかをもっともらしく語ることはできる。けれどもそれが彼らのかわきをいかほどいやし、新たな思考をはぐくみうるのか。それは全くわからない。それでも、何かほんの一言でも、彼らの心に残ることを期待して、今日もまた馬たちを水辺にさそう。

(福岡伸一『馬に水を飲ませる』光村図書 Monthly Message、2009年6月号)

福岡伸一（1959年～）青山学院大学理工学部教授。分子生物学専攻。

(注) 出典の「光村図書」は教科書会社で、Monthly Message はインターネットに登録した教師に毎月送られる情報メールである。

テキスト 4

時代を駆けるシリーズ [6]

片山善博 YOSHIHIRO KATAYAMA

<再就職先は慶応大学法学部教授。鳥取県知事 3 選不出馬表明直後に打診されたのが縁だった。
現在、一般教養や学生、大学院生のゼミなど週 5 コマの授業を持つ>

5 いろんな人が私にアドバイスをくれました。「授業態度に落胆らくたんしないように」と。「携帯電話をいじったり私語が多い。「いちいち腹を立てたら身が持たない」と言われましたが、全然そんなことがない。「静かに」と言えばピタッとやみます。携帯をいじったり無礼な学生はいません。
今の学生観はちょっと間違っている気がします。ゼミの学生に「この本をこういう観点で読もう」と言えばちゃんと読みますよ。大人の側に若者への誤解があるんでしょう。大人からのアプローチに大いに工夫の余地があると思いますね。

10 <「政治学」の登録者は約 450 人。出欠はとらないが約 350 人が出席し、机に伏せて寝る学生もわずか 15 人と良好な授業環境だ>

15 学生が自分たちで作る授業評価の冊子さっしでは、ありがたいことに授業充実度や学生の授業態度で（最高評価の）星五つでした。
心がけているのは動機付け。たとえば「地方自治論」のゼミで、ある区議会を学生たちに見学に行かせると「こんなにひどいんですね」と言いながら帰ってくる。普通は「議会は予算も決算も決定する最高権限を持つ」という制度論から入りますが、実態は全然違じつたいう。現場を見れば、最初から制度論をやるよりよっぽどスピーディーに、制度が想定する建前たてまえと実態の違ちがいを理解するんです。そこで「こんな現状はではいけない」と問題意識を持ち、考える力が身につく。具体例を教材に、概念がいねんを学んだ方が、学生の食いつきがいいし、動機付けにもなります。

(毎日新聞 2009 年 8 月 5 日)

片山善博 (1951 年～) 慶応大学法学部教授。1999 年～2007 年に鳥取県知事を務め、現在、地方制度調査会副会長なども務める。

設問

- 二人の筆者は、教えることについて、それぞれどのように考えていますか。
- 二つの文章の語調とその効果について比較しなさい。
- 文体や構成は、読者にメッセージを伝えるために、どのような点で効果的と言えますか。